

ご寄付の
お願い

教育研究協力資金

本学では、教育・研究のための環境整備などを目的として、継続的に皆様からのご支援を受け付けております。医学部開設から10年が経ち、大学・病院共に実習設備等の老朽化が進み、更新が必要となっております。ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

個人での
寄付申し込み方法

銀行振込

同封の振込用紙にて、金融機関よりお振込みください。
(一口1万円より) ※七十七銀行よりお振込みの場合、
振込手数料のご負担はありません。

[問合わせ先] TEL:022-234-4181(代表)
財務部財務課 E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp

インターネット

クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済より
お選びいただけます。下記二次元コードまたはURLより
お手続きください。

[教育研究協力資金]
[https://www.tohoku-mpu.ac.jp/
about/donation/](https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/donation/)



Homecoming Day

第2回 福室ホームカミングデイのお知らせ

日時 令和8年9月5日(土)16:00~18:30

会場 ●講演会 福室キャンパス プラタナスホール 16:00~17:00
●懇親会 教育研究棟1階 食堂 17:10~18:30

会費 無料

参加ご希望の方は、8月3日(月)までに同窓会宛に電話・FAXまたは
メールにてご連絡下さいますようお願い申し上げます。

[問合わせ先]同窓会事務局 担当:白石 TEL:022-234-4181 E-mail:dosokai2@tohoku-mpu.ac.jp

第9回 小松島ホームカミングデイのお知らせ

日時 令和8年10月11日(日)11:00~13:00

会場 ●講演会 昼食会
小松島キャンパス 学生ホール3階カフェテリア

会費 無料

参加ご希望の方は、9月24日(木)までに同窓会宛に電話・FAXまたは
メールにてご連絡下さいますようお願い申し上げます。

読者アンケートの
お願い

応募締切 令和8年9月末日

アンケートのご回答はこちら! ▶



「東北医科薬科大学報 TMPU family」に関する
皆さまのご意見・ご感想を募集しています。
頂いたご意見は今後の誌面作りの参考にさせていただきます。
なお、アンケートにご協力いただいた方の中から
抽選で10名さまに東北医科薬科大学オリジナルグッズを
プレゼントいたします!

※プレゼント当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※画像はイメージです。



東北医科薬科大学 広報委員会

〒981-8558 仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
TEL:022(234)4181(代) FAX:022(234)1785
<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/>



公式WEB



X



Facebook



YouTube



LINE



Instagram



TMPU family

■特集

- 01 卒業生メッセージ
- 03 研究室紹介「機能病態分子学教室」

■NEWS

- 05 大学&学生支援に関するお知らせ

■トピック&注目情報

- 07 医学部
- 09 薬学部
- 11 学部行事予定表
- 12 大学院
- 13 附属病院、法人
- 15 受賞・部活動報告
- 17 学生広報スタッフによる特別企画
- 19 お知らせ

「KEY PERSON」未来の扉をひらく「鍵」



一人じゃないから乗り越えられた、 支え合える仲間と出会えた6年間

東北医科薬科大学で学べて良かったと思う理由は？

東北医科薬科大学病院で初期研修2年目として勤務しており、来年以降は同大学病院の肝胆膵外科へ進むことが決まっています。東北医科薬科大学は、先輩・後輩の「縦のつながり」が非常に強く、先輩方とコミュニケーションを取りやすい環境に恵まれていたなと感じます。例えば、試験対策一つとっても「この授業はこうして勉強した方がいい」といった具体的なアドバイスが先輩から後輩へと、自然に共有されるような文化がありました。そうした環境は、学習を進める上で非常に大きな支えにもなっていたと思います。

また、一学年約100名という規模で6年間に共にするため、同級生との「横のつながり」も非常に深まります。講義や実習、国家試験対策などさまざまな場面で協力し合う機会が多く、互いに励まし合いながら成長できる関係を築くことができました。振り返ると、先輩・後輩・同級生といった人との繋がりを大切にしながら、充実した6年間で過ごせた大学生活だったなと思います。

これから医療・薬学の道を目指す高校生へのメッセージ

入学前は「医学部の勉強は大変なのではないか」と不安でいっぱいの方も多いと思いますが、実際に入ってみると、仲間と一緒に切磋琢磨する時間は非常に楽しく、想像以上に充実した学生生活が待っています。医療の世界に興味がある方にとって、温かい先輩や同期と互いに高め合えるこの大学はとても魅力的な環境が揃っている場所だと思います。

東北医科薬科大学病院
初期研修医（取材時）

氏原 理貴 さん

2024年3月 医学部医学科卒業
法政大学第二高等学校出身

▶ Check!
インタビュームービー
はこちら！



先生との距離の近さが、 自分らしい学びを支えてくれた

東北医科薬科大学で学べて良かったと思う理由は？

大学卒業後、JA秋田厚生連由利組合総合病院で病院薬剤師として働いています。東北医科薬科大学での日々を振り返ると、単なる「学びの場」以上の環境があったと思います。

東北医科薬科大学の先生方は、皆さん本当にフランクで話しやすい方が多く、学生との距離がとても近いことが魅力のひとつです。勉強に関することはもちろんですが、それだけではなく、将来への不安や、ちょっとしたプライベートな悩みごとまで、親身になって耳を傾けてくれる先生方が身近にいらっしゃいました。そういった相談しやすい雰囲気のおかげで、リラックスした状態で日々の勉強にも励むことができていたなと感じます。

これから医療・薬学の道を目指す高校生へのメッセージ

東北医科薬科大学は、薬剤師の国家試験において東北エリアでもトップクラスに高い合格率を維持し続けています。単に合格を目指すだけではなく、同じ目標を持つ仲間や支えてくれる先生方と一丸となって進んでいける環境は、非常に心強いものでした。

実力と心のサポートの両面が揃ったこの大学は、進路を考える上で自信を持っておすすめできる選択肢です。ぜひ、薬学の道を志す皆さんの、将来の候補の一つとして検討していただければと思います。



JA秋田厚生連由利組合総合病院
薬剤科（取材時）

齋藤 冬都希 さん

2022年3月 薬学部薬学科卒業
秋田県立本荘高等学校出身

▶ Check!
インタビュームービー
はこちら！



未来の扉をひらいた卒業生へのインタビュー、その活躍とともにTMPUの魅力を知解く。



「点」が「線」になる学びを糧に、 変化し続ける医療の最前線へ

東北医科薬科大学で学べて良かったと思う理由は？

ニプロファーマ株式会社本社の生産技術部という部署に所属しています。東北医科薬科大学での学生生活を振り返ると、すべての授業が今の自分の基礎となっており、どれも深く印象に残っています。薬学というのは非常に幅が広い分野ですが、その学びの中には、単に薬の知識だけでなく「医療人としての医学的な視点」も含まれているのが面白いところです。

1、2年次の頃は、基礎的な科目の一つひとつ個別に習得していく段階で、いわば知識を「点」として積み上げている状態でした。正直なところ、当時はそれぞれの学問がどう関わっているのかまでを捉えるのは難しかったように思います。ところが、3年生になるとそれまでバラバラだった知識同士が、自分の中で少しずつ「線」として繋がりはじめました。知識が結びつくことで、薬の働きだけでなく、人間の体や生命現象を「生命科学」というもっと広い視点でイメージできるようになり、格段に理解が深まったことを覚えています。

これから医療・薬学の道を目指す高校生へのメッセージ

現在の医療や薬学の世界は、以前にも増して高度化が進んでおり、これからの時代は、国内の枠にとらわれず、グローバルな感覚を持って活躍できる人材がこれまで以上に求められます。さらに、最近では製薬業界のあらゆる場面でデジタル技術が活用されるようになってきました。こうした新しい技術は、やはり若い世代の皆さんの方が順応しやすく、理解も圧倒的に早いと思います。是非これから医療・薬学の道を目指す皆さんには、今の専門領域を土台としつつ、より多角的な視点を持って、邁進していったほしいです。



私が製薬企業への道に興味を持った当時は、周囲の学生の多くが病院や薬局への就職を目指しており、企業を志望する人は決して多くはありませんでした。しかし、その中で私の背中を押し、応援してくださったのがメーカー出身の指導教員の先生でした。先生が、同じように企業への道を選んだ先輩を紹介してくださったことで、OB訪問を通じて現場のリアルな声を聞くことができ、企業で働く具体的なイメージを持つことができました。そのことが自分自身の道を開ききっかけにもなったと感じます。

これから医療・薬学の道を目指す高校生へのメッセージ

薬学部薬学科は、薬剤師国家試験という大きな目標に向かって突き進めるよう、集中できる環境が整っていると思います。ですが、私のように「薬剤師免許を背景に持ちながら、企業で働く」という道を選び、充実した仕事をしている卒業生もたくさんいます。学生生活では専門知識を蓄えるだけでなく、キャリアに対する視野を広く持ち、様々な選択肢に触れて、自分自身の可能性をどこまでも広げていったほしいなと思います。

中外製薬株式会社
医薬安全性本部（取材時）

黒澤 志乃 さん

2018年3月 薬学部薬学科卒業
仙台育英学園高等学校出身

▶ Check!
インタビュームービー
はこちら！



ニプロファーマ株式会社
生産技術部（取材時）

伊藤 大輔 さん

2012年3月 薬学部生命薬科学科卒業
福島県立郡山東高等学校出身

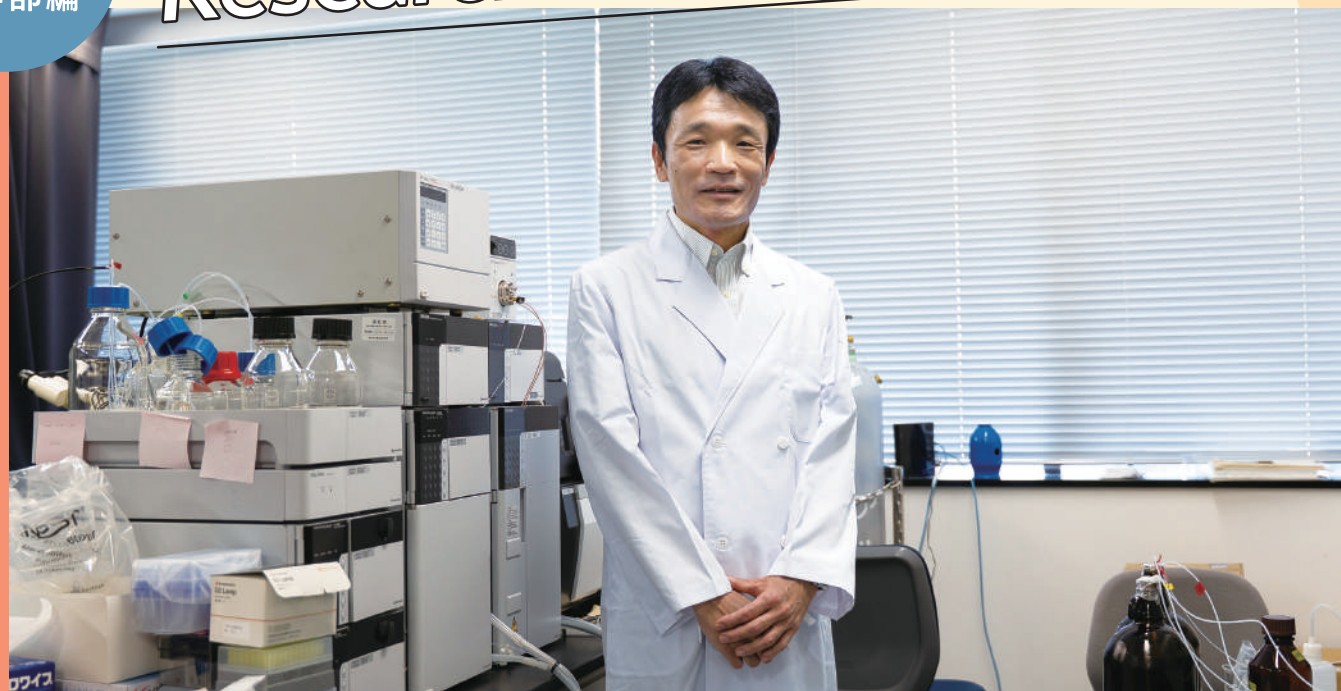
▶ Check!
インタビュームービー
はこちら！



Research will move you!

心動かす研究の面白さ！

思った通りにはいかない。
だからこそ研究は面白い。



機能病態分子学教室

Q 研究キーワード

- スフィンゴ糖脂質
- 糖鎖生物学
- 分子病態学
- 炎症性疾患

interviewee

稲森 啓一郎 教授

Inamori Keiichiro
九州大学大学院医学系研究科修了。博士(理学)。大阪大学大学院医学系研究科、米国アイオワ大学医学部・ハワードヒューズ医学研究所などを経て、2013年に東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)へ着任。2024年より教授。専門は生化学、糖鎖生物学。スフィンゴ糖脂質の機能解明を通じて、病気の発症機構の解明や診断法の研究に取り組んでいる。

Q 機能病態分子学とはどんな学問ですか？

細胞から病気の謎に迫る

病気がなぜ起こるのかを、細胞や分子のレベルから解き明かす学問です。私たちは特に「糖鎖」や「糖脂質」と呼ばれる分子に注目しています。糖脂質は糖鎖が脂質に結合した分子で、私たちの体のほぼすべての細胞を包む膜の表面に存在しています。炎症やがん、代謝異常などさまざまな病気に関わることが分かってきており、その仕組みを理解することで、新たな診断法や治療法の開発につなげることを目指しています。



糖脂質から病気を読み解く

細胞膜に存在する「スフィンゴ糖脂質」という分子が、炎症やさまざまな病気に関わるのかを研究しています。病気になると糖脂質の量や構造が変化することがあり、それが病気の進行に影響している可能性があります。また、遺伝子の異常によって糖脂質が正常に作られなくなる先天性疾患の研究にも取り組み、病気の原因解明や診断につながる研究を進めています。

Q 先生がこの分野に興味を持たれたきっかけは？

「なぜ？」を追うおもしろさ

もともとは理学部で、生き物や人体の仕組みに対する純粋な好奇心から研究の世界に入りました。卒業研究で生化学に触れ、「体の中では何が起きているのだろう」と探究するおもしろさを知り、研究者の道を志しました。仮説通りの結果だけでなく、予想もしなかった発見に出会えることも研究の醍醐味であり、その魅力に今も引き込まれています。

Q 研究室の雰囲気は？

和やかで楽しい研究室

今年度から研究室が統合され、大学院生や学生も増えてにぎやかになりました。教員と学生の距離も近く、気軽に話せる雰囲気があります。互いに意見を交わしながら研究を進めており、活発なコミュニケーションも研究の魅力の一つです。

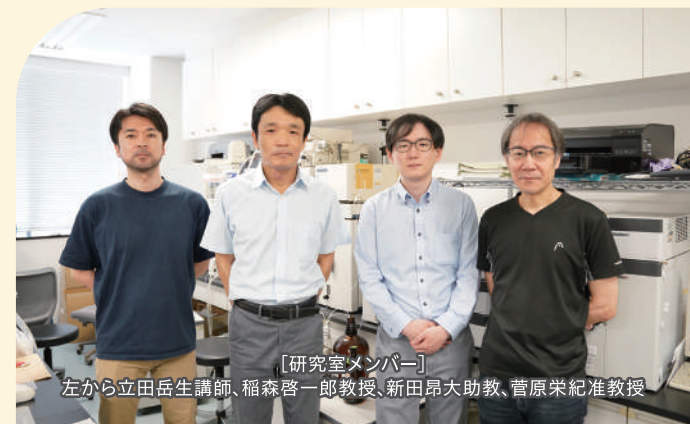
Q 研究で実現したい未来は？

好奇心が未来の医療を拓く

研究の出発点は「なぜだろう？」という好奇心です。しかし、その積み重ねが将来の医療につながると考えています。糖脂質が病気に関与しているのかを明らかにすることで、病気の発症を早期に発見する診断技術や、新しい治療法の開発につながる可能性があります。10年後、20年後でも構いません。研究によって得られた知見が、病気に苦しむ人を減らし、医療の発展に役立つことを願っています。



研究風景



[研究室メンバー]
左から立田岳生講師、稲森啓一郎教授、新田昂大助教、菅原栄紀准教授



研究室の外ではどんな顔？

OFF TIME

好奇心は休日も健在です

休日は書店巡りを楽しんでいます。科学や医療に関する本はもちろん、小説や自己啓発本などジャンルはさまざま。気になる本を見つけたら購入し、夜はお気に入りのクラフトビールを片手にゆっくり読む時間が癒やします。



大学&学生支援に関するお知らせ

新学長挨拶

今年4月1日付で学長に就任しました。どうぞよろしくお願い致します。今年度は本学創設88年目、医学部設置11年目となりますが、地域医療に貢献する医療系総合大学を目指し、来年4月には3つ目の学部として看護学部が設置される予定で、現在申請書類の審査が行われています。医師の不足・偏在が社会問題となっていますが、薬剤師・看護師についても同様の問題は存在します。本学は、地域医療への貢献に誇りを持ち、患者さんの尊厳を尊重するヒューマンズムと高度な専門知識・技術・倫理観を備えるプロフェッショナリズムを併せ持つ医療者を育成すべく、学生教育を進めて参ります。

学長 柴田 近



クラウドファンディング『瞑想の森再生プロジェクト』目標金額を達成！

当初は420万円を目標金額として掲げておりましたが、皆さまからの温かいご支援により、目標を大きく上回る6,479,000円(目標達成率154%)を達成することができました。心より感謝申し上げます。『瞑想の森の再生』を願ってくださる皆さまのお気持ち一つひとつが、私たちにとって大きな励みとなっております。ご支援を通して託された想いを大切に受け止め、誠実に事業を進めてまいります。



富谷市と「病院の開設及び運営に関する基本協定」を締結

学校法人東北医科薬科大学と富谷市は、富谷・黒川地域における救急・急性期医療体制の充実を図り、地域住民の生命と健康を守る中核的な病院を開設・運営することを目的に、5月26日に基本協定締結式を行いました。新病院は令和13年度の開院を目標としており、今後、基本構想・基本計画の策定を進め、関係機関と連携しながら地域医療の充実に向けて取り組んでまいります。



文部科学省へ看護学部看護学科(仮称)の設置認可申請を行いました

本学は、令和9年(2027年)4月の開設を目指し、「看護学部看護学科(仮称)」の設置認可申請書を文部科学省へ提出いたしました。開設に向け、設置認可を受けられるよう、今後も丁寧に審査対応を進めてまいります。



医学部・薬学部合同の体験学習を実施(ハンディキャップ体験)

医学科・薬学科の1年生が合同で行うハンディキャップ体験では、患者とその家族の気持ちや生活を理解するという、医療人に必要な心構えを身に着けることを目的の一つとしています。視覚障がいの疑似体験を行った際には、アイマスクを装着し点字ブロックと白杖をたよりに障害物のあるコースを歩きました。何も見えない恐怖から、なかなか歩みを進められない様子で、ハンディキャップを抱える方が感じる不自由さを体感していました。



学部に関わらず、学生の皆さんに役立つ情報をお知らせいたします！

二松会からの図書贈与御礼

毎年、二松会から本学図書館に図書購入費の御支援をいただいております。昨年4月以降、次の図書を購入しましたのでご報告いたします。二松会・保護者の皆様へ心より御礼申し上げます。

〔令和7年4月～令和8年3月末までの購入分〕	〔年間〕
● 薬剤師国家試験対策参考書 改訂第15版 全9巻	● 合計 111種
● 領域別既出問題集 改訂第13版 全9巻	● 金額 500,000円
● イヤーノート 2027 など	

保健管理センターの利用について(小松島・福室キャンパス)

保健管理センターでは、学生の皆さまが心身ともに健康に過ごせるようサポートしています。キャンパス内での急な体調不良やケガの際には、応急的な対応を行います。また、持病の自己管理に関する相談や、気分の落ち込みなど日常生活でのちょっとした不安についても気軽に相談ください。なお、保健管理センターは診療所ではないため、診察やお薬の処方はありません。学医、臨床心理士(公認心理師)、看護師が必要に応じて対応します。一部の相談については予約制となっておりますので、事前に来室またはお電話での予約をお願いいたします。皆さまが安心して相談できるよう、プライバシーに十分配慮して対応いたします。



保健管理センター 連絡先	小松島キャンパス	直通電話 022-727-0054
	福室キャンパス	直通電話 022-290-8865

体調不良やケガなどの急病 看護師による相談	平日 月曜～金曜 8:30～17:00(随時)
臨床心理士(公認心理師)による相談	平日(予約制)
学医による相談	平日(予約制)

奨学金について

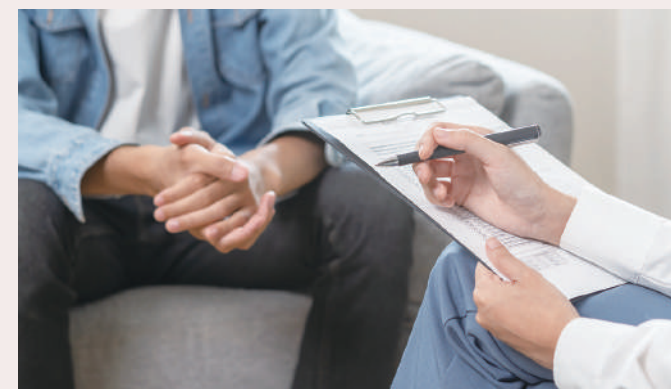
経済的な理由により修学が困難な学生を支援する制度として、各種奨学金を紹介しています。本学では、奨学金に関する情報をホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。ご不明な点がございましたら、奨学金担当窓口までお問い合わせください。

支援室について

障がいや疾患のある学生が、その種別や程度に関わらず、他の学生と等しく教育を受けることができるよう、支援室が学内関連部署と連携しサポートにあたっています。配慮までの流れや配慮例については、本学ホームページ(サポート体制)をご覧ください。教育機関として適切な配慮を実施するために、学生の要望や教育の本質などを踏まえて慎重に検討を行っています。支援の実施までには時間が必要ですので、何らかの困難が想定される場合は早めに支援室までご相談ください。

学生相談室について

小松島・福室の両キャンパスでは毎週月曜日に「学生相談室」を開室しています。医学部、薬学部、教養教育センターの教員が相談員となり、勉強や友人、将来のことなど様々な悩みについて一緒に解決方法を考えます。また、もう少し専門的な助言等が必要な場合には保健管理センターやその他の部署などを紹介します。相談は事前予約制です。予約方法や相談担当者については、本学ホームページ掲載の「学生相談室だより」をご覧ください。



学生相談室開室情報	
小松島キャンパス	福室キャンパス
月曜日16:00～18:00 (ひとり1時間以内)	月曜日17:30～18:30 (ひとり1時間以内)
〔場所〕 中央棟1階 学生相談室	〔場所〕 教育研究棟1階 学生相談室

詳しくは「奨学金案内」をご覧ください
https://www.tohoku-mpu.ac.jp/admission/ad_scholarship/



医学部長挨拶

医学部長 河合佳子



東北の地域医療に貢献する、医学部11年目の挑戦

本学医学部は東日本大震災からの復興の取り組みの一つとして2016年に東北薬科大学に医学部を新設する形で誕生しました。東北の地域医療に貢献できる人材を育てることを使命とし、新設学部の特長である学生と教員の距離が近いことを生かし、学生の声を取り入れた新カリキュラムを導入して3年目を迎えています。カリキュラムの特徴は、6年間の学びを通して東北のことをより深く理解できる講義や各県の病院を訪問する実習など、地域医療を実践的に学べる点であり、実際に多くの卒業生が東北の臨床研修病院で学び、その後も地域の様々な病院で活躍中です。今後も地域医療に熱い思いを持つ学生さん達と一緒に私たちも成長していきます。

『福室キャンパスデイ』開催のお知らせ

東北医科薬科大学医学部が開設され10周年、東北地方で勤務する卒業生を招いて、現在の生活の様子や勤務先病院の説明、自らのキャリアプランなど在校生と気軽に話せる機会として福室キャンパスデイを開催します。当日はテレビや書籍でもご活躍の今明秀先生による記念講演も予定しています。

福室キャンパスデイプログラム

〔開催日〕令和8年9月5日(土)

第1部『今明秀先生』記念講演 13:00～14:00予定
〔会場〕プラタナスホール

東北出身・東北在住の救急救命医が本学医学部開設10周年を記念して講演をして下さいます。地域医療の魅力ややりがい、現場のリアル、そして学生・若手へのメッセージをお届けいただく予定です。

第2部 県別ブース交流 14:00～16:00予定
〔会場〕福室キャンパス食堂

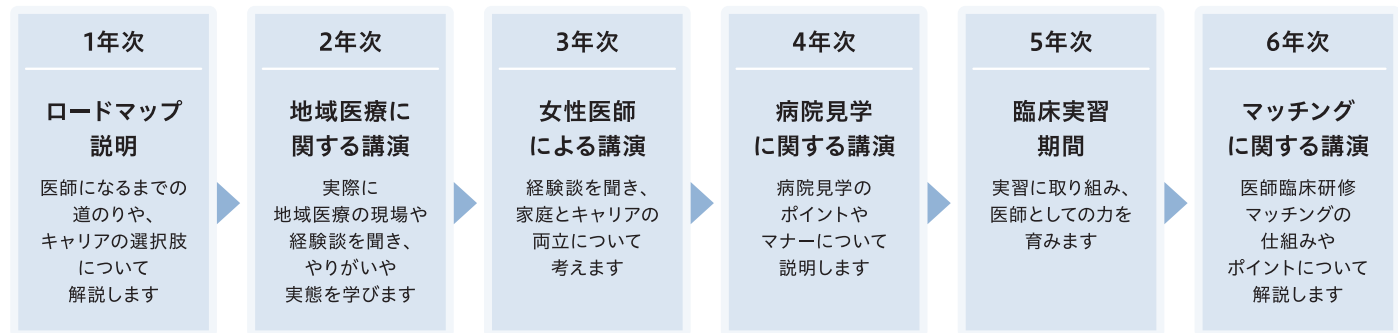
青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島各県ブースに、地域枠・一般枠を問わず本学卒業生の医師が待機し、本学医学部生との交流を図ります。

医学部卒業生交流支援センター

「医学部卒業生交流支援センター」では、卒業生や在学生へのキャリア形成支援を行っています。卒業生に対しては、進路に関する相談対応や、卒業生同士の交流機会の提供などを通じて、医師として継続的に成長できるようサポートしています。悩みや不安が生じた際には、ぜひ当センターへご相談ください。在学生に対しては、1年次からのキャリアガイダンス、附属病院の各診療科と連携した診療科説明会、病院見学や就職活動の支援、個別面談などを実施しています。早い段階から将来を見据えた準備ができるよう、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行っています。また、卒業生が病院見学の心得、マッチングや面接対策、国家試験に向けた勉強法などを在学生に伝えるイベントも実施しており、世代を超えたつながりを築く機会にもなっています。今後も、在学生・卒業生の皆さんが安心して医師としての道を歩んでいけるよう、切れ目のない支援を続けてまいります。

主なキャリア支援行事

学年に合わせたキャリア支援行事を実施し、将来の選択肢を広げます



この他、東北医科薬科大学病院の各診療科による診療科説明会、卒業生、在校生との交流の場の提供、キャリア相談、個別相談等を通じて、医師としてのキャリア形成を継続的に支援しています

白菊会について

5月19日に、仙台国際センターにおいて、宮城県内における献体篤志家団体である東北大学白菊会の第49回総会が執り行われました。本年度総会は会員約270名が出席し、成願者への黙祷が捧げられました。来賓挨拶では東北大学の石井直人医学部長より、会員の篤志により医学教育が支えられていることに対し謝意が伝えられました。また、2年次に優秀な成績を修めた学生を表彰する「鹿野記念奨学奨励賞(鹿野賞)」と、5年次に優秀な成績を修めた学生を表彰する「笠原賞」の授賞式が行われ、本学からは医学部3年の香川陽彦さんと守屋美那さんが鹿野賞を、医学部6年の佐々木拓也さんが笠原賞を受賞しました。会の後半では、医療法人松田会 松田病院の伊藤美香氏より、「フレイル予防～いつまでも健康的な生活を食事と運動で～」と題した記念講演が行われました。

令和7年度医学部優秀教員表彰式を挙行了しました

6月2日、福室キャンパス 医学部教育研究棟 プラタナスホールにおいて、令和7年度医学部優秀教員表彰式を挙行了しました。医学部では昨年度より教員の意欲向上と授業改善の活性化を図ることを目的として、優秀教員表彰制度の新設を行い、毎学期に行う学生による授業についてのアンケートの結果を評価し、各学年から優秀科目を選出しました。式では、河合佳子医学部長が受賞者表彰状・副賞を贈呈し「本表彰は、皆様の多大なるご尽力をいただいたおかげで実施できており、感謝申し上げます。本日は先生方の授業における工夫した点についての成果発表が見られるので楽しみにしています。我々はコロナ禍で学生がいない時期も経験しましたが、やはり“学生があっての大学”です。先生方には、学生に対し、今後もより良い授業をお願いしたいと思います。」と激励の言葉を述べました。その後、代表者4名から教育研究の成果発表や今後の抱負等、活動報告が行われました。

BT賞 ベストティーチャー賞 GT賞 グッドティーチャー賞

1年次

BT賞:「生命科学Ⅲ」有川智博 准教授
GT賞:「医学概論」高木徹也 教授
GT賞:「行動心理学」森本幸子 准教授

2年次

BT賞:「生理学」河合佳子 教授
GT賞:「局所解剖学」上条桂樹 教授
GT賞:「微生物学」神田輝 教授

3年次

GT賞:「法医学」高木徹也 教授
GT賞:「臨床免疫・アレルギー学」石井智徳 教授
GT賞:「感染症学」遠藤史郎 教授

4年次

BT賞:「臨床薬理学」岡村信行 教授

卒業生の臨床研修について

医学部は開設以来「地域医療の多様なニーズに対応できる幅広い診療能力を持った医師を育成し、東北地方の地域医療の未来を支えること」を使命に掲げ、令和8年3月には第5期卒業生を輩出いたしました。現在、第4期卒業生の70%、第5期卒業生の75%が東北地方で臨床研修を行っております。さらに臨床研修後は、東北の地域医療に貢献する修学資金医師も東北地方で勤務することとなるため、より多くの卒業生が東北地方で活躍してくれることと期待しております。今後も卒業生が医師としての職責を継続して果たしていけるよう、関係機関と協力しながら支援してまいります。

第120回医師国家試験結果について

2月7日・8日に実施された第120回医師国家試験において、本学では104名が受験し95名が合格(新卒96名中89名合格)しました。受験に向けて努力を重ねた学生たちに敬意を表するとともに、大学では今回の結果を踏まえ、国家試験対策や学修支援のさらなる充実に取り組んでいます。今後も「東北の地域医療を支える医師の育成」という使命のもと、教職員が一丸となって学生の成長を支援し、地域医療に貢献できる人材の育成に努めてまいります。引き続き、保護者の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

進級基準

医学部の進級判定基準については二次元コードからご覧いただくことができます。なお、進級基準は入学年度によって異なりますのでご注意ください。各規則の詳細は学生本人に配布している学生便覧をご確認ください。



進級基準

薬学部長挨拶

薬学部長 村井ユリ子

「地域医療の多様な場面で活躍できる人材の育成」は新たなフェーズに

建学の精神「われら真理の扉をひらかむ」のもと開学90年を目前に、本学部が一貫して目指すのは、地域医療を担う薬剤師養成と生命科学を基盤に健康を担う多様な分野で活躍する人材の育成です。一方、医療や情報技術等の進展に応じてカリキュラムを見直し、薬学科では令和6年度から、生命薬科学科は来年度から新しいカリキュラムが導入されます。両学科とも本学ならではの強みを生かし、ハンディキャップ体験や解剖見学実習などは医薬両学部が連携して学ぶ貴重な機会になっています。高いコミュニケーション能力と自己研鑽能力の開発を目指し、来年度からは学内の看護学生も加えて、さらに学生一人ひとりが興味を持って臨める学びの実現を図ります。

薬学科 白衣授与式

1月28日、小松島キャンパス講義棟において、薬学科新5年次生を対象に白衣授与式を開催しました。この式典は本学の学生が臨床実習に就くに当たり、薬剤師を目指す者としての自覚を促すものです。式典では実習生代表2名に本学のロゴ・大学名が入った白衣が手渡されました。また、8年目となる今年、初めて保護者の皆様にもご参列いただき、ともに学生の門出をお祝いいただきました。



第111回薬剤師国家試験結果

第111回薬剤師国家試験が2月21日、22日の両日全国9地区を会場として実施され、3月25日に厚生労働省より結果が発表されました。本学の新卒は212名が受験し177名が合格、合格率は83.49%でした。

今年度も国家試験対策として次のような補講や演習を実施する予定です。

- ①基礎学力演習:4月14日～ 6月25日(40日間)
- ②国試対策特別補講Ⅰ:10月13日～ 11月18日(25日間)
- ③国試対策特別補講Ⅱ(希望者):2月1日～2月10日(6日間)
- ④模擬試験(第1回～第5回):4月8日、7月27日、28日、10月5日、6日、11月19日、20日、1月25日、26日

生命薬科学科卒業研究発表会

生命薬科学科4年次27名による、卒業研究発表会が去る2月3日に本学中央棟にて行われました。卒業研究は3年次後期から4年次においての約1年半の研究結果をまとめたもので、発表は一人ずつパワーポイントによる口頭発表を行います。当日の発表の際には多くの教員、学生が集まり、活発な質疑応答が行われました。学生は、本発表会において出た意見、質問等を踏まえて論文を完成させ、期日までに提出しました。

薬学部学術フォーラム

4月27日、第1回薬学部学術フォーラムを開催しました。キックオフとなった今回は、特別講演として東北工業大学の鈴木郁郎先生をお招きし、同大学の小林正樹学長にもご参加いただきました。学内からは本学学長、医学部教員、大学院生、学部生が参加し、活発な質疑応答が行われました。講演後の交流会は、講演者、教員、学生が立場を超えて交流を深める貴重な機会となりました。



実務実習について

薬学科の5年次は各々11週間(計22週間)の薬局実習と病院実習があります。その前年にあたる4年次は薬剤師業務に関連した20科目以上の講義と5週間の実務模擬実習を修了し、年末には知識習得度試験であるCBTと薬剤師業務の実技試験であるOSCEをパスする必要があります。5年次は実務実習で長期間大学キャンパスを離れることになりますが、その間、大学教員は、WEBツールを用いて個別に実習生の進捗状況を見守っています。また、薬局実習・病院実習の各々2回(計4回)、実習施設に訪問し、指導薬剤師ならびに実習生と面談し、実習中の悩みごとやその他の実習中のトラブルの早期発見と迅速な対応に努めています。

進級基準

薬学部の進級判定基準については二次元コードからご覧いただくことができます。なお、進級基準は入学年度によって異なりますのでご注意ください。各規則の詳細は学生本人に配布している学生便覧をご確認ください。



進級基準

ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞受賞者決定

薬学部では教育の質の更なる向上を目指し、学生の授業アンケートで高評価を受けた教員へ、ベストティーチャー賞・グッドティーチャー賞を授与する制度を設けました。5月25日に令和7年度受賞者の表彰式及び受賞報告会が行われました。



ベストティーチャー賞

- 薬学科
 - [総合科目]木戸紗織 講師
 - [基礎薬学科目]善積克 講師
 - [医療薬学・専門選択科目]丹野孝一 教授
- 生命薬科学科
 - [総合科目]内山敦 教授
 - [基礎薬学科目]諸根美恵子 教授
 - [医療薬学・専門選択科目]八百板富紀枝 准教授

グッドティーチャー賞

- 薬学科
 - [総合科目]野中泉 教授
 - [基礎薬学科目]町田浩一 教授
 - [医療薬学・専門選択科目]溝口広一 教授
- 生命薬科学科
 - [総合科目]菅原美佳 准教授
 - [基礎薬学科目]八百板康範 教授
 - [医療薬学・専門選択科目]名取良浩 准教授

就職・キャリア支援情報

薬学部の就職情報ならびに
キャリア支援情報は
右記二次元コードから
ご覧いただくことが可能です。



求人・進路状況



キャリア支援行事予定



● 医学部

2026年 8月	
17日(月)～21日(金)	医学部1・2年次 前期追再試験
17日(月)	医学部6年次 後期授業開始
17日(月)	医学部6年次 後期オリエンテーション
18日(火)	CBT本試験
22日(土)、23日(日)	臨床実習前OSCE本試験
24日(月)	医学部1・2年次 後期オリエンテーション
24日(月)	医学部1・2年次 後期授業開始
24日(月)～28日(金)	後期選択必修科目履修登録期間
24日(月)～9月18日(金)	課題研究(前期)
27日(木)	医学部1年次 キャリアオリエンテーション
31日(月)～9月4日(金)	医学部4年次 進級判定試験

2026年 9月	
9日(水)	CBT追再試験
10日(木)	医学部2年次 キャリアオリエンテーション
13日(日)	臨床実習前OSCE追再試験
24日(木)～10月21日(水)	課題研究

2026年 10月	
3日(土)	在学生保護者教育懇談会(仙台)
9日(金)	白衣授与式
9日(金)	医学部6年次 統括講義(中間試験)
11日(日)	オープンキャンパス
11日(日)	大学祭(10日(土)準備日)
13日(火)	診療科臨床実習開始
13日(火)	5年生MEC模擬試験
13日(火)～30日(金)	医学研究科 一般および社会人入学試験(一次募集)
	願書受付期間
22日(木)	医学部3年次 後期授業開始
22日(木)	医学部3年次 後期オリエンテーション
26日(月)	医学部5年次 確認試験
31日(土)	臨床実習後OSCE本試験

2026年 11月	
1日(日)	臨床実習後OSCE本試験
3日(火・祝)	CBTトライアル試験
9日(月)、10日(火)	メディックメディア冬模試
13日(金)	医学研究科 一般および社会人入学試験(一次募集)
17日(火)	宮城A枠修学資金説明会
21日(土)、22日(日)	臨床実習後OSCE追再試験
25日(水)	医学研究科 一般および社会人入学試験(一次募集)
	合格発表
30日(月)	第二期授業料等納付金納入期限

● 薬学部

2026年 8月	
17日(月)～11月1日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅲ期)

2026年 9月	
1日(火)、2日(水)	薬学科4年次C B T体験受験
3日(木)	後期授業開始

2026年 10月	
5日(月)、6日(火)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第3回模擬試験
7日(水)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
13日(火)～11月18日(水)	薬学科6年次国試対策特別補講Ⅰ
30日(金)	薬学科4年次薬学実力試験(C B T対策)

2026年 11月	
7日(土)	薬学科1・2年次、生命薬科学科1年次中間試験
16日(月)～2月7日(日)	薬学科5年次実務実習(第Ⅳ期)
19日(木)、20日(金)	薬学科6年次薬剤師国家試験対策第4回模擬試験
25日(水)～	薬学科6年次薬剤師国家試験対策模擬試験弱点補講(オンデマンド配信)
30日(月)	第二期授業料等納付金納入期限

2026年 12月	
1日(火)～11日(金)	医学研究科 一般および社会人入学試験(一次募集)
	入学手続期間
2日(水)	合同慰霊祭・遺骨返還式 準備
3日(木)	合同慰霊祭・遺骨返還式
5日(土)、6日(日)	冬MEC模擬試験
11日(金)	統括講義(定期試験)
21日(月)、22日(火)	メディックメディア直前模試
21日(月)～1月20日(水)	医学部2年次 後期定期試験
24日(木)～1月15日(金)	医学部1年次 後期定期試験

2027年 1月	
4日(月)	統括講義(追再試験)
6日(水)～18日(月)	医学研究科 一般および社会人入学試験(二次募集)
	願書受付期間
15日(金)	医学部1年次 後期末オリエンテーション
18日(月)	確認試験
20日(水)	医学部2年次 後期末オリエンテーション
25日(月)～2月5日(金)	医学部1年次 後期追再試験
25日(月)～2月15日(月)	医学部3年次 後期定期試験
26日(火)	国家試験受験票配布&激励会
1月28日(木)～2月17日(水)	医学部2年次 後期追再試験
29日(金)	医学研究科 一般および社会人入学試験(二次募集)

2027年 2月	
(未定)	第121回医師国家試験
10日(水)	医学研究科 一般および社会人入学試験(二次募集)
	合格発表
15日(月)	医学部3年次 後期末オリエンテーション
16日(火)	CBT模擬試験
17日(水)～26日(金)	医学研究科 一般および社会人入学試験(二次募集)
	入学手続期間
17日(水)～25日(木)	医学部3年次 後期追再試験
22日(月)～3月3日(水)	医学部1・2年次 進級判定試験
22日(月)	確認試験
26日(金)	課題研究全体発表会(自由見学)

2027年 3月	
1日(月)～8日(月)	医学部3年次 進級判定試験
11日(木)	卒業証書・学位記授与式

2026年 12月	
5日(土)、6日(日)	薬学科4年次薬学共用試験(O S C E)
17日(木)	後期授業終了

2027年 1月	
5日(火)、6日(水)	薬学科4年次薬学共用試験(C B T)
5日(火)～18日(月)	後期定期試験(薬学科4年次:1月7日(木)～18日(月))
18日(月)～22日(金)	薬学研究科 一般・社会人・留学生 願書受付期間
26日(火)	後期成績Web公開
28日(木)	薬学研究科 一般・社会人・留学生 入学試験
下旬	実務実習事前講習会(薬学科4年次)

2027年 2月	
1日(月)～12日(金)	後期追・再試験(薬学科4年次:～2月10日(水))
12日(金)	薬学研究科 一般・社会人・留学生 合格発表
17日(水)	薬学科4年次薬学共用試験(O S C E 追・再試験)
23日(火)	薬学科4年次薬学共用試験(C B T 追・再試験)
(未定)	第112回薬剤師国家試験

2027年 3月	
10日(水)	進級判定
11日(木)	令和8年度学部卒業証書・学位記授与式並びに大学院学位記授与式

Q1 ご専門分野について教えてください。

仙腸関節障害の治療が専門

整形外科の中でも、脊椎や腰痛・仙腸関節診療を専門としています。普段診療している「仙腸関節障害」は、椅子に座れない、仰向けで寝られないといった特有の症状があり、日本全国から、最近では韓国からも患者さんが来院されます。

私の使命は、治療法がなく困っている難治性腰痛の患者さんの「最後の砦」になること。もちろん、うまくいかないこともあります。常に現時点でのベストを尽くして向き合いたいと考えています。

Q2 先生が大学院で取り組まれている研究について教えてください。

仙腸関節の組織学的構造の解明がより確かな治療の根拠になる

靱帯が骨に結合する「靱帯骨付着部」の構造に興味を持ちました。かかと周辺の「アキレス腱付着部炎」や足裏の「足底腱膜炎」などと同じような組織学的構造が仙腸関節にも見出せれば、同じ治療法を適応する根拠になると考えたからです。

現在は、ご遺体から仙腸関節に関連する靱帯と骨の付着部を切除して、組織や細胞の特徴を明らかにするために観察するという研究をしています。また、今後は恥骨結合の不安定性と仙腸関節面の不適合についても、肉眼解剖を通じてさらに研究を深めていきたいです。

Q3 大学院に進学しようと思った理由は？

多様な講義スケジュールで、研究と医師の仕事の両立が可能。

臨床で解決できない問題に忸怩たる想いを抱き、仙腸関節の解剖による探究の必要性を感じたのがきっかけです。当初は臨床スキルが落ちる不安もありましたが、本学は社会人大学院生として仕事と両立できる環境だったため、進学を決意。オンラインと対面を組み合わせた単位取得や、個々の事情に合うように講義スケジュールのパターンが多く用意されている点に大きな魅力を感じています。

Q4 医学の道を目指す方へのメッセージ。

積み上げたキャリアと共に新たな挑戦を。

キャリアを途切れさせずに好きな研究を続けられる幸せを実感しています。私は40代で大学院に入学しましたが、新しい情報を得ることで思考がリフレッシュされました。現在医学生として在籍している皆さんには、ぜひ壁に当たるまで臨床を突き詰めて、大学院を利用してその壁を突破してほしいと思います。



医学研究科 医学専攻 博士課程3年

黒澤 大輔さん

JCHO仙台病院 整形外科医長／日本仙腸関節・腰痛センター長

大学院生インタビュー

医療と創薬の未来を拓く、大学院の道



薬学研究科 薬科学専攻 博士課程前期課程1年

野村 桜子さん

2025年3月 薬学部卒業

Q1 薬学系を目指したきっかけは？

人体の仕組みへの興味を研究という形で追求したい。

昔から人体の仕組みに関心があり、医療系に携わりたいという想いを持っていました。自分に何ができるか考えた時、物事を深掘りすることが好きだったので、幅広い研究に携われる生命薬科学科を選びました。また、叔母が本学出身の薬剤師で、歴史が深く真面目に学べる大学だと聞いていたことも、入学を後押ししました。

Q2 大学院に進学しようと思った理由は？

大学入学時から決めていた修士課程への挑戦。

もともと研究職に興味があったため、大学に入る前から少なくとも修士課程までは進みたいと親にも相談しており、就職は考えず自然な流れで進学を決めました。研究を止めることなく、さらに深く追求し続けたいという想いが強かったです。

Q3 研究テーマについて教えてください。

アレルギー反応の鍵を握る糖鎖の未知なる形を追う。

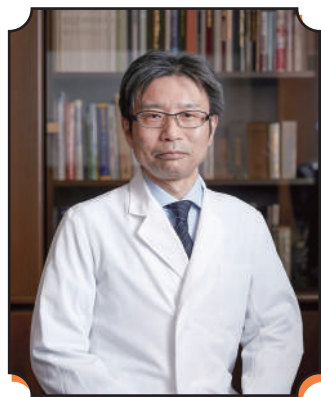
花粉などのアレルギーの原因物質を体内でキャッチする「IgE」というタンパク質と、そこに結合している「高マンノース型糖鎖」の構造や役割を解明するのが私のテーマです。先輩や外部の方との共同研究で、この糖鎖がIgEの熱安定性に関わっていることが分かってきました。これらの仕組みを明らかにすることは、将来的にアレルギー反応をコントロールできるようになったり、新しい薬をつくるヒントになったりするかもしれません。

Q4 今後の展望を教えてください。

地道な基礎研究を続け、アレルギー解明に貢献したい。

大学院に入ってから、先輩に教えることで自分自身の学びも深まり、日々の充実度が上がりました。実験は思った通りの結果が出ないことも多いのですが、それは新しい発見の種。落ち込むよりも「なぜこうなったのか」と探究心が刺激され、別の角度から考察するプロセス自体に研究ならではの面白さを感じています。自分で立てた仮説に沿ったヒントが得られた瞬間のワクワク感は、本当に格別です。

将来は大学や研究所と地道に続けていきたいと考えています。私自身も花粉症なので、いつかメカニズムを解明できたら嬉しいですね。



統括病院長挨拶

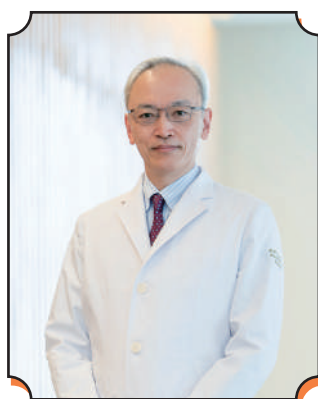
東北医科薬科大学の附属病院は、2016年に東北薬科大学に医学部が新設された際、その前身である東北厚生年金病院とNTT東日本東北病院の2つがそれぞれ東北医科薬科大学病院、東北医科薬科大学若林病院として生まれ変わって誕生しました。大学病院となって10年が経過し、両院合わせた医師数も350名に近づいております。臨床研修医、専攻医も合わせて110名以上となり、全職員数も両院合わせ1600名を超えました。看護学生を年間約350名、薬学部学生も約80名、病院実習生として受け入れております。附属病院で臨床実習を行った大学の卒業生も5期併せて400名以上となり、その約7割が東北地方で医師として活躍しております。今後も大学病院として高度な医療を実施するとともに、医療者の育成を通して地域医療への貢献を果たし、東北地方の医療の復興に寄与すべく成長していくことを目指していきます。

統括病院長 佐藤賢一

本院 病院長挨拶

当院は東北医科薬科大学の附属病院本院として再出発して10年が経過し、2026年6月には三次救急施設としての認定（宮城県内で7箇所目・仙台市内で4箇所目）を受けて救命救急センターが稼働するなど、高度急性期医療を提供する病院として診療の質と規模を充実させています。また、教育病院としても医師・薬剤師をはじめとして多くの医療人材の卒前卒後の臨床教育の中で多職種連携教育にも取り組んでいます。さらに臨床研究推進センター機能も拡充し、新たな治療法の開発や研究にも取り組んでいます。これからも地域に根ざし、診療・教育・研究に関わる全ての人々から必要とされ続ける大学病院として、さらに発展して行けるように努めてまいります。

東北医科薬科大学病院 病院長 川本俊輔



若林病院 病院長挨拶

東北医科薬科大学 若林病院は139床のコンパクトな附属病院ですが、急性期病床だけでなく、回復期リハビリテーション病棟を有し、透析センターや健診センターなど特色ある機能で本院を補完しています。また、総合診療科など各診療科が幅広い医療を提供するとともに、救急車も積極的に受入れ、地域の2次医療を支える一方、市民講座・各種教室の開催や人間ドック・健診などの予防医学への取り組みを実施し市民の健康への貢献を図っております。院内では、多職種が連携するチーム医療（呼吸器リハビリチームや骨粗鬆症リエゾンチームなど）に熱心に取組むとともに、その実践の場を通じて医学部・薬学部等の学生や若手医療者を指導するなど、地域に根差した医療人材の育成にも力を注いでおります。

東北医科薬科大学 若林病院 病院長 東海林 史

本院より

救命救急センター除幕式を開催

6月1日、本院は宮城県では7番目となる「救命救急センター」の指定を受け、新たな一歩を記念して、除幕式を開催しました。セレモニーでは、川本俊輔病院長・遠藤智之センター長による看板の除幕を行った後、救命救急センターの医師・看護師等のスタッフも参加し、集合写真を撮影しました。



若林病院より

MRI装置を更新しました

4月、当院放射線科ではMRI（磁気共鳴断層撮影）装置を更新しました。従来のものに比べ格段に機能が向上し、短時間で高精細な画像を得られるようになりました。今後も、地域の皆さんに安心・安全で質の高い検査・診療を提供してまいります。



法人より

令和8年度事業計画

中長期計画「VISION FOR 2030」6年目となる令和7年度は中長期計画第2期の初年度として、教育・研究・診療それぞれの分野において概ね計画どおり成果を挙げることができました。第2期2年目となる令和8年度は、初年度の取組状況を精査し、必要な見直しを適切に反映しながら、より確実な運営を進めてまいります。各領域において、中長期計画の達成年度に向け、着実に単年度事業計画の取組を実行していく必要があります。具体的な計画については、「令和8年度事業計画の概要」及び「令和8年度領域別事業計画」に示しております。教職員全員がそれぞれの職責を自覚し役割を全うすることで、中長期計画に定めるビジョンの実現に向けた歩みを進めてまいります。

1 教育領域

●医薬共通

両学部において教育の質の更なる向上を図るため、既存の取り組みに加え、「IR機能の整備」、「FDの参加率向上」、「教員の教育面における評価制度の導入」、「学生の学修成果の活用」の4点に注力します。また、多職種と連携しながら地域医療を実践できる人材の養成を目的として、医学・薬学分野横断的な教育を充実させ、医薬連携科目を着実に実施します。

●医学部

授業アンケートや成績データを用いて行動科学教育ツリーの改善や課題・試験の作問の質向上を行い、入学前から卒後までサポートします。

●薬学部

入学後、学修に専念できるよう、基礎学力と学修習慣の定着を目的とした入学前教育を実施します。また、実践的教育向上のため、附属病院所属の臨床系薬学教員による教育体制の充実を図ります。

2 研究領域

若手研究者の育成と支援のため、研究症例セミナーを実施し、優秀な若手研究者への研究費の助成を行います。さらに、研究エフォートの調査を実施し、業務効率化などを通して研究時間確保のための方策を策定します。また、外部資金申請率向上を目指し、外部資金獲得に向けセミナーを実施するほか、公募情報や説明会の情報を積極的に周知します。さらには、大学院生を含め、研究者が国内外の学会等に参加しやすい制度設計の検討を進めていきます。

4 入学者選抜領域

18歳人口の減少が急加速している中で、確実に志願者を確保すべく、広報を強化し、入学後の成績等の解析を実施するとともに、入試制度の導入改変などの検討を進めます。オープンキャンパスについては、受験生のニーズを把握し本学の個性や魅力を発信するため、学生広報スタッフと協力しながら学生目線の工夫を取り入れていきます。附属病院とも連携し、入学希望者の増加及びブランド力向上のため、広報活動を推進してまいります。

6 経営管理領域

今後見込まれる「看護学部設置」や「富谷市新病院構想」を、2024年度に策定した「財務改善に向けたアクションプラン」（以下「アクションプラン」）に反映させ、ブラッシュアップを行います。アクションプランの進捗状況や四半期毎の決算報告等を共有し、学内周知を徹底し、構成員の意識改革・行動変容を促し、経営改善に繋がります。また、適正人員に基づく定員管理を進めるため、医学部では教員数の定員制度整備を進め、事務組織も部署ごとの人員設定を検討します。併せて、令和8年度に事務職・医療職を対象に評価制度（目標管理制度）を試行し、研修体系や人材要件とあわせて、職員のキャリアパスとして整理していきます。

法人の詳細情報について

本法人の詳細情報につきましては、ホームページ内の「情報公開」に掲載しておりますのでご参照ください。
<https://www.tohoku-mpu.ac.jp/about/information/>



TM Pu Award

受賞&活動報告

学内外で活躍する
学生・教員を紹介します

※学年・所属・役職は受賞当時

受賞・表彰

部活動



医学部医学教育推進センター 豊島かおる助教
アレルギー・好酸球研究会2025/
第34回国際喘息学会日本・北アジア部会合同大会 YIA賞
受賞



医学部衛生学・公衆衛生学 佐藤倫広 講師
第37回血圧管理研究会 日野原重明賞
受賞



医学部6年 佐々木拓也さん
第85回日本医学放射線学会総会
Medical Trainee Best Case Report Awards
(臨床研修医/医学生優秀症例報告賞) 2nd Prize 受賞



薬学部臨床感染症学教室 ポストドクター 星野祐太さん
第100回日本感染症学会・
第74回日本化学療法学会合同学会
優秀演題賞 受賞



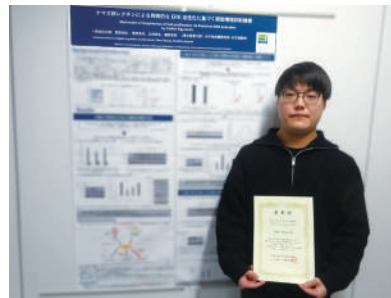
本学の学生がSNS型投資詐欺の被害を未然に防ぎ、
宮城県警察から感謝状をいただきました



病院事務部 今野英幸次長
パワーリフティング競技
令和7年度宮城県スポーツ協会
スポーツ功績賞(個人) 受賞



2025年度中級バイオ技術者認定試験合格率90.4%
上級バイオ技術者認定試験合格率84.6%
達成



薬学部分子認識学教室 大学院2年 菊地洸太郎さん
第48回日本分子生物学会 ポスター賞
受賞



卓球部
北日本医科歯科学学生卓球大会 第3位



釣り部
第2回南三陸釣り大会
“釣って”“撮って”
みんなで作るお魚マップ 入賞



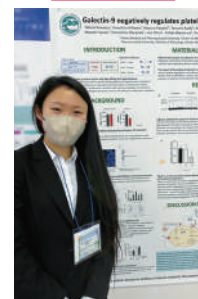
スキー部
第51回東北地区医科歯科学学生スキー大会
医学部3年 宮城翔宇さん
準優勝



令和7年度生命薬科学科
卒業研究優秀発表賞授賞式
実施



医学部衛生学・公衆衛生学教室 佐藤倫広講師
(公財)中谷財団調査研究助成
受賞



医学部5年 河津天音さん
第57回東北生理談話会 優秀賞
受賞



アンサンブル部
第3回全国大学生ピアノ選手権 本選出場



卓球部
2025年度東日本医歯薬学生卓球大会 第3位



準硬式野球部
令和7年度リーグ戦(2部)において表彰



医学部3年 佐藤蒼大さん
日本脳神経外科学会東北支部会 優秀賞
受賞



医学部精神科学教室 福地成准教授
ASCAPAP2026 Best Poster Award
受賞



薬学部生薬学教室 村田敏拓准教授
HTM2026 the Outstanding Award
受賞



卓球部
第61回東北地区医科学学生卓球大会(東北リーグ)
優勝



水泳部
第61回日本医科学学生水泳競技大会
女子総合2位
個人種目にて大会記録を樹立



ソフトテニス部
第49回春季北日本医歯薬学生
ソフトテニス大会女子団体戦
および女子個人戦 優勝

Special interview

学生特別企画

学生広報スタッフ[tmPR]が 輝く学生にインタビュー！

大学の学びは、講義や実習だけではなく、
地域活動やボランティアなど、学外での経験を通して視野を広げ、
自分らしい学びを深めている学生もいます。
今回、学生広報スタッフ「tmPR」は、学内外で活躍する2人の学生にインタビューしました。
地域医療への思いを胸に活動する医学部医学科3年の**長谷川遥花さん**と、
子どもたちを支えるボランティア活動や執行委員会(学生会)に
取り組む薬学部薬学科4年の**浅利麻尋さん**に、
活動の魅力や将来の目標について伺いました。

一歩踏み出した先で見つけた学びや成長のかたちをご紹介します！

Q1 地域医療に対して興味を持ったきっかけを教えてください

私が地域医療に興味を抱くようになったのは高校生の頃です。医師を志していた私は、高校の授業で医師の働く場について調べ、地域医療に関するイベントにも参加しました。山形の高齢者医療や地域包括ケアシステムを学ぶ中で、医師の方から「イナカの医療は日本の未来の縮図」という言葉を聞き、地域医療を考えることが日本の未来につながるのだと感じ、地域医療に携わる医師に憧れるようになりました。
さらにコロナ禍を経て、人と人とのつながりについて考える機会が増えました。その中で、医師、看護師など多職種の方々と関わりながら、一人の患者さんの人生を共に考えていく医療の在り方があり、それが山形でも実践されていることを知りました。その際、心の底から嬉しさを感じたことを今でも鮮明に覚えています。将来自分が働くなら、このような医療を提供できる地域医療に携わりたいという思いが強くなりました。

Q2 そうした活動を行う中でのやりがいを教えてください

最初は地域医療にもっと触れたいという思いから活動を始めました。しかし、多くの方々との出会いや対話を通して、人と人とのつながりを実感するとともに、自分の将来について考える機会も増え、地域の方との交流が私自身の人生観に大きな影響を与えています。
将来は医師として患者さんと向き合うことになりましたが、医学生の中から心がけていることがあります。それは医療の“眼”だけでなく、一人の人間として地域の方と向き合うことです。実際に地域の方々との交流の中で、自分自身の在り方や生き方を、ふと見つめ直す瞬間があります。そして、医学生という肩書を一度外して地域の方とつながり、自分自身の内面に変化が起きたと感じる瞬間に、大きなやりがいを感じます。

Q3 将来の医師像や今後の目標について教えてください

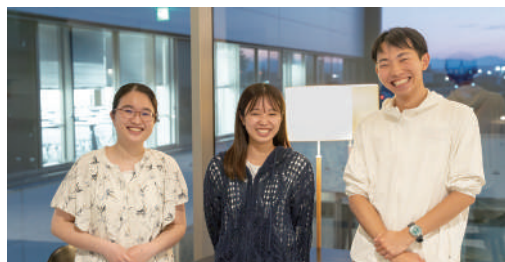
将来は地元の山形県で働く総合診療医になりたいです。現在は山形県内外のさまざまな地域で活動していますが、それぞれの地域や病院で得た経験や学びを山形県の地域医療に生かしていきたいと考えています。長年一つの地域に根差して診療を続ける医師に憧れており、私も将来はそのような存在を目指しています。また、目の前の患者さんに向き合える医師になりたいです。診察室で病気を診るだけでなく、その地域での暮らしや文化、家族などの背景まで理解できる医師になれば素敵だと思います。
地域医療の現場で活動する中で、医療職だけでなく、教育や農業など異なる分野の方々がいてこそ、患者さんや地域を支えられることを実感しました。その経験から、医学生も医療以外の分野について知ることが大切だと考えるようになりました。将来は医師として、医療の視点から患者さんや地域を支えていきたいです。

医学部医学科3年
長谷川遥花さん



profile

山形県出身。高校生の頃から地域医療に興味を持ち、現在は本学の地域医療サークルTohoku Community Medicine club (TCM)の部長を務める。また、昨年仲間とともに設立した地元・山形で地域医療を学ぶ団体「あいべ」の代表も務める。そのほか、三重県紀宝町公認の4代目紀宝町みらいドクターや、日本プライマリ・ケア連合学会主催の家庭医療学夏期セミナーのスタッフとしても活動し、地域医療に精力的に取り組んでいる。



tmPR 今回は私たちが取材しました！

学生広報スタッフ「tmPR」は、学生目線で
本学の魅力を発信するボランティアチームです！
今年度は医学科4名、薬学科11名、生命薬科学科3名、
大学院薬学研究科1名の合計19名で構成されており、
イベント班・SNS班・インタビュー班に分かれて幅広く
広報活動を行っています！



薬学部薬学科4年
浅利麻尋さん



profile

青森県出身、宮城県育ち。大学入学を機に「Chance for Children」でのボランティア活動を始める。執行委員会(学生会)では1年間会長を務め、他の役員と協力しながら課外活動の見直しに取り組んだ。現在は、ラーメン店でのアルバイトやボランティア活動など、さまざまな経験を重ねながら学業との両立に励んでいる。



Q1 執行委員会(学生会)について教えてください

執行委員会(学生会)では主に、学生が主体となって部費や施設の管理を行っています。年に2回行われている学生総会では、予算を決めたり、大学でのルールを変える話し合いなどが行われています。学生会の仕事では、大金を管理することになるため、客観的に見て公平になるように管理することに力を入れています。学生会のメンバーは薬学部生が多い状況ですが、興味のある医学部生にもぜひ参加してほしいと思っています。

Q2 「Chance for Children」について教えてください

Chance for Childrenは、東日本大震災を機に発足した、家庭の経済状況による子どもの教育格差の解消を目指した団体です。大学生ボランティアは1人から3人の子どもを担当し、月に1回の電話交流を通して、日常生活のことから進路の相談まで様々な話をしています。子どもたちに寄り添えるよう、大学生ボランティア同士で研修会や報告会を定期的に行っています。
また、「スタディクーポン」の提供も活動の一つです。経済的な状況に関わらず、子どもたちの好きなことや進路希望を叶えられるよう、数多くの学習塾や習い事で使用可能になっています。これらの活動を通して、子どもたちへの支援に取り組んでいます。

Q3 Chance for Childrenの活動のやりがいを教えてください

勉強だけでなく、サッカーやピアノ、ボルダリングといった習い事など、子どもたちが幅広い分野で挑戦したいことを支援し、応援できることに魅力を感じています。
子どもたちは一人ひとり個性が異なり、控えめな子もいれば元気にたくさん話してくれる子もいます。面談を重ねる中で、最初は自分からあまり話してくれなかった子が徐々に自分から話してくれるようになると嬉しく感じます。また、いつも元気な子が悩みを打ち明けてくれたときは、大学生ボランティアとして第三者の相談相手になれていることを実感し、この活動を続けていてよかったと感じます。
こうした子どもたちの成長を支える経験を通じて、自分自身も成長することができ、大きなやりがいを感じています。

長谷川さん、浅利さん、インタビューにご協力いただき
ありがとうございました！
次号も、皆さまに楽しんでいただける内容をお届けします。
どうぞお楽しみに！